

【別紙】 実証実験において実施する5つのチャレンジ

- 町内移動の利便性と効率性の両立を図るため機能の異なる3つのモビリティを運行
- モビリティ事業だけでは採算性が乏しいため**モビリティを活用した他の収益源を確保**
- **マイカー依存度が高い方々への働きかけ**により公共交通での移動を促進

収益源の拡大

2 貨客混載

農作物の町内店舗への輸送



特産品の大都市圏への輸送



3 送客

中心市街地店舗や地域振興施設への送客により、集客力や収益力を向上



移動の利便性・効率性の両立

1 移動の重ね掛け

機能の異なる3つのモビリティを運行し、町内輸送の利便性と効率性を向上

オンデマンド交通

タクシーを活用した予約制・乗合型の移動サービスを提供



けやき通りシャトルバス

日常移動と通勤・通学移動の時間特性を踏まえた同一の小型バスによる効率的運行



通勤・通学シャトルバス



モビリティの活用

マイカー依存に対する働きかけ

4 免許返納チャレンジ

疑似体験を通じて自家用車の必要性を見つめ直す機会を創出



5 ナッジ理論

ナッジ理論を活用し、自発的に公共交通を利用したくなるような仕掛けを創出



公共交通での移動促進